



# Vamos juntos



No.7

文責 小坂佑騎

## 学校がはじまりました

12月中旬から1月までの夏休みが終わり、ブラジルの公立学校も2月から授業が始まりました。ブラジルの公立学校は、午前部と午後部に分かれており、基本的に生徒は半日の登校でした。ここアリアンサでも、小学生と高校生は午前中で授業が終わっていました。中学生はというと、15時半までの授業でした。ちなみに、始業は7時と早く、遠方からのバス通学の生徒は、朝5時ごろにはバスに乗るといように、ブラジルの学校の朝はとても早いです。第一アリアンサの日本語学校の生徒は、午前中公立学校の授業を受け、午後から日本語学校へ来ていました。ところが、今年から中学生、高校生が15時45分まで授業となり、学校の時間が延長されました。この背景には、授業時間が長い学校の方が、成績優秀な生徒が多いということもあるようです。ただ、村の人たちの中には、高校生が午後も学校になると、農業などの家の手伝いができないで困るといった意見もあります。教育に力を入れることは、国を発展させる上でとても大切なことですが、地域の実情を考えると、一概に喜ばしいことでもないようです。このように聞くと、アリアンサ村の人は教育に熱心でないのでは？と誤解されてしまいそうなので補足説明します。アリアンサからはラテンアメリカで最難関と言われるサンパウロ州立大学他、各州立大学への進学者も多くいます。学校が終わった後に、予備校へ行ったり、自分で勉強したりと、頑張っている人が多いように感じます。特に、日系人は勤勉で努力家という印象が強いです。ブラジルへの移住が始まってから112年を迎える今でも、日本人の気質を守っている日系社会は素晴らしいと思います。

ちなみに、今年からブラジルの公立学校で英語、数学、ポルトガル語の授業を一緒に受けようと考えています。先日校長先生にあいさつに行ったところ、教員の配置が遅れていて、まだ時間割ができていないとのこと。時間割ができてから来てくださいと言われたので、まだ登校できていませんが、これにはびっくりしました。これも日本と大きな違いであり、ブラジルの抱える課題なのかもしれません。



始業式で、今年の目標を考えている様子



始業式後、軽食会（ブラジルは何かの会の後、軽食がよくあるように感じます）

## 第2アリアンサ、第3アリアンサの先生の送別会

2月15日（土）に、弓場農場で第2アリアンサと第3アリアンサの日本語学校の先生の送別会をしました。第2アリアンサは鳥取県から高校の先生が派遣され、第3アリアンサはJICAを通じて富山県から中学校の先生が派遣されています。二人は3月に日本へ帰国し、4月からそれぞれの県の学校で勤務をされるとのことです。二人とも私と同じく弓場農場でお世話になったということもあり、少し早いですが送別会をしました。二人ともそろって言っていたのは、ブラジルでは家族や仲間を大切にすることです。日曜日は、お店がほとんど休みで、家族と一緒に家で食事をしたり、仲間とシュラスコ（焼肉）をしたりして過ごします。先生方は、日本に帰ってから仕事が忙しくなるかもしれないけれど、ブラジルで見たいところはこれからの生活や仕事に生かしたいと話していました。たしかに、ブラジルは日本に比べたら不便なことはたくさんあります。しかし、ブラジルに住んでみると、不便さよりも人との繋がりを大切にす素晴らしいさを感じます。

弓場への感謝の歌を歌う先生と弓場の人々



## ブラジル人のお宅での昼食会

2月17日（日）に第一アリアンサ文化体育協会前会長さんに、たまにはブラジル人の集まりに行ってみたらどうかね、とお声がけをいただき、初めてブラジル人のお宅へ行ってきました。どうしても日本語が通じる日系の方と話しがちになってしまいましたが、今回は日本語が全くない中ではじめはドキドキしていましたが、とても温かく迎えてくださり、おいしいブラジル料理をたくさんいただきました。私の他にも親戚や友達が10人ほど集まり、大盛り上がり。言葉も少しずつ分かるようになってきたとは言え、3分の1ほど理解できるくらいですが、それでも楽しく半日を過ごしました。外国人（ブラジルでは私が外国人ですが…）との関わりに対して、勝手にハードルを高くしていた私ですが、ブラジルに来てそのハードルが下がってきたように感じます。思い切って飛び込んでみることで、知らなかった一面を知ることができ、仲間が増える楽しさを感じます。ちなみに、ブラジルは移民が非常に多い国なので、ブラジルの人たちは国籍によって差別するようなことはほとんどないように感じます。一方、アリアンサの課題として感じるのは、日系の方たちが非日系（純ブラジル人）の方たちに対しての偏見が残っていることだと思います。例えば、うどん会などの行事では日系人ばかり仕事をして、非日系の人たちは手伝わないといったことがあります。でも、それは日系のコミュニティの中で仕事がしづらいということが理由かもしれません。ブラジルへの移住後すぐのころ、日本人がブラジル人のことを「外人」と呼んでいた、その名残がまだ少し残っているのも事実です。そういう昔からの意識を少しずつ変えていけたらと最近よく考えます。これは、日本の社会でも同じことがあって、特に地方では外国人に対する偏見が多いように感じます。あいさつや会話など、ちょっとした関わりで改善されることもあるかと思っています。アリアンサの発展と文化の継承のために日系と非日系の懸け橋になれるようできることを模索していきたいと思っています。